

☆弁護士にインタビュー☆



金沢の北村勇樹弁護士に突撃インタビュー！

弁護士になって10年目・・・

どのような話が聞けるのでしょうか！？

Q. 弁護士は、どんな仕事をしているのですか？



弁護士は、社会の中で起こる様々なトラブルを防止したり解決したりするために働いています。多くの弁護士が法律事務所に所属して仕事をしていますが、現在では、企業で働く弁護士や国や地方公共団体、国際機関などの職員として働いている人もおり、自分にあった職場や働き方を選ぶことができます。

Q. どんなバッジをつけていますか？バッジの意味を教えてください！



弁護士バッジの表面は、ひまわり草の花の中心部に天秤(はかり)1台を配した装飾がなされており、花卉の部分は金色、中心部地色は銀色となっています。裏面には、「日本弁護士連合会員章」という文字と登録番号が記載されています。

表面のひまわりは正義と自由を、中央の天秤(はかり)は公正と平等を追い求めることを意味していて、「基本的人権を擁護し、社会正義を実現する」という弁護士の使命を象徴しています。

Q. 仕事でやりがいを感じることは何ですか？



全米弁護士会

弁護士は「人を助ける」ことを仕事としています。トラブルを解決することができたときの依頼者の安心した顔を見たり、感謝の言葉を頂いたりしたときに大きな喜びを感じます。また、社会は、企業の経済活動により成り立っている面がありますが、企業が法令を遵守しつつ経済活動を行うようアドバイスし、そうすることで消費者である国民全員の幸福につながる重要な仕事をしている点でもやりがいを感じます。

Q. 子供の頃は、どんな勉強（科目）が得意でしたか？



全米弁護士会

算数・数学や社会(地理・歴史)が得意科目でした。反対に、国語はずっと苦手科目でした。それでも、たくさん本を読んで勉強したことで、今では苦手意識はなくなりました。

Q. 弁護士になりたいと思ったのはいつ頃ですか？



全米弁護士会

大学3年生のときに弁護士を志すようになりました。ちなみに、中学生の頃までは宇宙飛行士に、高校生の頃は国際連合の職員になりたいと思っていました。

Q. なぜ弁護士になりたいと思ったのですか？



全米弁護士会

将来どんな職業に就きたいかを真剣に考え始めたのは、大学生になってからのことでしたが、まずは、「日々の生活の中で人の役に立てる仕事がしたい」と考えるようになりました。そして、「一度きりの人生なので、どうせ

なら、より難しいことに挑戦しよう」と思い、弁護士を志すようになりました。

Q. なぜ悪い人の弁護をするのですか？



警察に逮捕されたり刑事裁判にかけられたりしている人が必ずしも罪を犯したとは限らないからです。真犯人と間違われて警察に捕まったり刑事裁判にかけられたりすることはドラマや小説の世界だけでなく現実にも起きています。ですので、その人の言い分をよく聞いて、もし、本当に悪いことをしていないのであれば、その人の無実を晴らさなければいけません。また、仮に、その人が本当に罪を犯してしまっている場合にも、どうして罪を犯したのか、あるいは、自らが罪を犯したことについて今はどのように考えているのか、といったことを裁判官や裁判員に伝える必要があり、弁護士が弁護人として、その人をしっかりとサポートすることで、適正な裁判が行われ、その人に相当な刑罰が科せられることとなります。